

相国寺御用達

京菓菓

雲龍

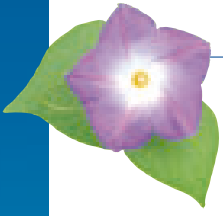
雲龍は相国寺に保存されている狩野洞春の龍画に感銘を受け創作した、京菓匠・俵屋吉富の代表的な名菓です。雲龍の奥深い旨さの秘密、それは精選された材料と、一本一本心をこめて巻いていく手づくりの味にあります。心をこめた贈り物に幸福を呼ぶ雲龍をどうぞ……。



平成二十一年夏号(第九十二号)

図明

大本山相国寺
相国会本部



暑中お見舞い申し上げます

相国会総裁 有馬頼底
 副総裁 江上泰山
 会長 片岡匡三
 本部長 佐分宗順
 平成二十一年盛夏

内局

管 承天閣美術館館長	有馬頼底
宗 務 総 長	真如寺住職 江上泰山
庶 務 部 長	玉龍院住職 坂根孝慈
教 学 部 長	豊光寺住職 佐分宗順
財 務 部 長	林光院住職 澤分宗泰
法 務 部 長	大光明寺住職 矢野謙堂
教学・庶務部員	普廣院副住職 山木雅晶
財務・庶務部員	長栄寺住職 鈴木景雲
承天閣事務局長	大應寺住職 久山弘祐
承天閣参事	普廣院住職 山木康稔
鹿苑寺執事長	長得院住職 緒方香稔
// 執 事	是心寺副住職 和田賢明
// 執 事	養源院住職 小平景堂
慈照寺執事長	桂徳院住職 小塚景堂
// 執 事	瑞春院住職 須賀玄集

目次

カラーグラビア◎中国河北省 柏林寺接心 2

◎鹿苑寺 慈海長老二十五回忌法要厳修 5

御挨拶 6

般若林に遊ぶ小鳥たち 10

演劇塾 長田学舎 斉藤維明 10

柏林寺修行体験記 17

是心寺副住職 和田賢明 17

第四教区若狭少年研修会四十回記念特集 23

宗務総長 江上泰山 23

龍虎寺住職 田村周山 23

真乗寺檀徒 犬嶋日向子 23

真乗寺檀徒 山田なつの 23

正法寺檀徒 中嶋つばさ 23

積尊の足跡を訪ねて(二) 32

竹林寺住職 牛江宗道 32

本山だより 48

教区だより 57

特別寄稿 熊本、福岡、檀信徒参拝の旅 62

光明寺 真珠会 東 博子 62

教化活動委員会活動報告 70

教化活動委員会委員長 佐分宗順 70

カラーグラビア◎「相国寺 金閣 銀閣名宝展―パリからの帰国―」開催中 74

宝物拝見「真台子飾」 75

心のすがた 76

中国河北省 柏林寺接心

本文 50頁 本山だより
17頁 柏林寺修行体験記 参照



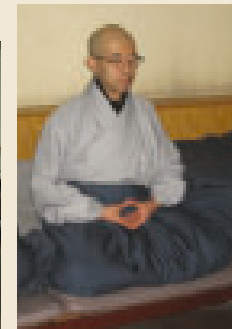
晚課出頭



極寒の柏林寺



食後の行導



韜光室老大師

きんひん
経行(中国風)



茶礼

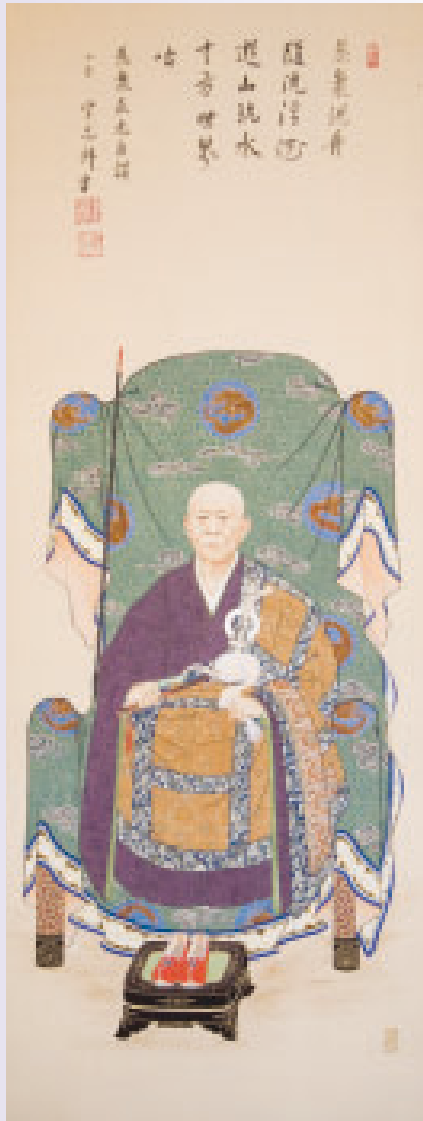


楞嚴行導



塔参諷經

撮影：柴田明蘭



慈海長老頂相

鹿苑寺 慈海長老二十五回忌法要厳修

〔六月二十日〕



作務 本尊掃除



訪中国一行

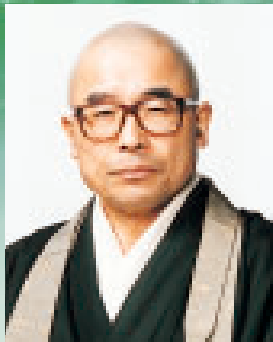


日本食を作り、中国僧に供す



明海住職(右)と固い握手

御挨拶



宗務総長 江上泰山

光陰は矢の如しと申しますが、月日の経つのがこんなにも早いのかと感ずる年齢になりました。今年も亦お盆を迎える頃となり、毎日大変暑い日が続いておりますが、全国の円明誌をご覧になる皆様、お元気でご活躍でしょうか、暑さ対策には充分ご留意下さい。

昨年五月、三たび宗務総長の要職を拝命してより一年余りが経ちましたが、百年に一度といわれる金融恐慌、経済不況の中、管長猥下始め内局員各位のご高配により大過なく運営の出来ましたのも、派内寺院各位はもとより相国会々員の皆様のご支援、ご協力のたまものと有難く感謝申し上げます。

管長猥下におかれましては、大変お元気で例によって東奔西走のご活躍でございますが、毎年秋に行われております「ご親教」は今年で七年目を迎え、昨年一昨年に続いて第四教区若狭高浜町東部地区にお邪魔を致します。ご親教も年を追うごとに各地よりご好評を頂いております、提案者の一人としてこんな有難いことはないと喜んでおります。

又本派唯一の専門道場の師家に昨年よりご就任頂いておりますとうこうしつ 韜光室小林玄徳老師におかれまして、日夜雲納のご指導をいただきながら、各所よりの要請により坐禅指導並びに法話にご尽力いただいております。敬意を表するところでございます。

さてこの円明誌が皆様のお手元に届く頃は日本最大の佛教行事でありますお盆を迎える準備に入っておりますことと存じます。

八月に入りますと各寺院では施餓鬼会せがきえが行われます。施餓鬼の餓鬼とは心の満たされない自分中心の狭い心を持った人間のことで、その心を持った人間を鬼といいます。しかも「一切の餓鬼」というように

「満たされない鬼たち」は限りなく私たちの回りにいるのです。

例えば食べ物にも、一枚の紙にも、それぞれの生命いのちがあります。その生命が、それぞれの役割を十分に生かすきつたら、その生命は満たされ

るのです。

ところが、自分ひとりで生きていくような錯覚に陥り、思いあがつた狭い心の人は、食べ物も、一枚の紙も無駄にしていまい、その心は満たされないままになってしまいます。餓鬼とは、そうした満たされない心たちです。

私たちの毎日食べている食べ物は他の尊い生命を頂いているのです。一枚の紙の生命も、見失っている私たちの狭い心が満たされない心と共に鳴るのです。

これに対する解決方法はお釈迦さまの説かれた施餓鬼会の法要、つまり「施し」でした。

施し、とは「布施」のことです。餓鬼に施すとは、わが身のためでなく、困っている人の苦しみ、悲しみを見て、施さずにはおられない、ということ真心こそ本当の「施し」なのであります。

そもそも施餓鬼会の始まりは皆様もご存知のようにお釈迦さまの十大弟子の一人で、最後までお釈迦さまにつかえた「多聞第一」といわれた阿難さんの心の悩みについてお釈迦さまが「施餓鬼棚に山海の飲食を供え、沢山の修行僧に施餓鬼会の法要を営んでもらいなさい。そうすれば、少

量の供物は沢山の供物となり、すべての餓鬼に施されるであろう。そして多くの餓鬼は救われ、お前も長寿を得ることができ、更に、悟りを開くことができるであろう」と答えられた。

これがお施餓鬼の始まりとされており、日本には平安時代に伝来し、日連尊者が餓鬼道に堕ちた母親を救った事から起こった盂蘭盆会(倒懸)といい、逆さ吊りにされた苦しみの譬(たと)えと結びついて、お盆の月に、各地の寺院で施餓鬼会(施食会)が多く行われるようになりました。

心の狭い若き阿難さんは、自分の利益を中心とした利己主義は煩惱をよりどころとし、世間の損得をよりどころとしていたから、エゴイズムから開放されず、愚かさを繰り返していたのですが、「お釈迦さまの説かれた真理(真実)をよりどころとしなさい」という教えに従いこの「施し」によって阿難さんは生命がのびたのです。

人の痛みがわかり、人の喜びを共に喜ぶるとき、身も心ものびのびとし、身体全体から生きる力がよみがえってくるのではないのでしょうか。

お盆を迎えるに当り、お施餓鬼の意義を考えてみました。

皆様のご健勝をお祈り致します。

「般若林に遊ぶ小鳥たち」

演劇塾 長田学舎 斉藤維明



「ちいちいばっぱ ちいばっぱ

雀の学校の 先生は

むちを振り振り ちいばっぱ

生徒の雀は 輪になつて

お口をそろえて ちいばっぱ

まだまだいけない ちいばっぱ

も一度一緒に ちいばっぱ

ちいちいばっぱ ちいばっぱ

童謡「雀の学校」さながらに、般若林の庭に雀が群れ遊んでいます。互に追いかけてっこをするように小走りをしたり、木の枝に飛び跳ねる姿も、砂地で砂浴びをしている様子も、人の心を和ませ癒してくれます。雀は平安の昔から、否、もっと大昔から人間の生活の営みの側で暮してきた小鳥です。容姿は茶褐色の斑模様の見栄えのしない小鳥です。鳴き声もチュンチュンと単調で、時として群れてのさえずりは騒々しいと感じることすらあります。そんな雀の絶え間のないう鳴き声から、よくしゃべる人のことをスズメと揶揄する言葉として使われることもあります。又、害虫を食べる一方で、稲や穀物を食べ荒して人を困らせます。「舌切り雀」の昔噺もこんなところから生まれてきたのかも知れません。

それでも尚、永々と人の暮しに添って来れたのは、その可愛いらしい仕草などによるのでしょう。

般若林の庭には椿の木が何本もあります。その花の時節には、メジロが誘われるようにやって来ます。メジロは椿の花の蜜が大好物です。枝先で逆さまになって、茶緑の羽根毛を光らせ、目の周りが白い模様の瞳をクリクリさせて、夢中で花の蜜を吸っている姿は、何とも微笑ましいものです。それほどメジロを虜にする椿は、別名、メジロ招きと言うそうです。



鳴き声で楽しませてくれるのが、何と言っても鶯です。ウグイスほど大昔から日本人に愛でられてきた小鳥はいないでしょう。まだ寒い早春に、ホ、ホ、ケキヨとたどたどしい初音を聴くと、かじかんだ身も心もときほぐされて、穏やかな気持に誘われます。と共に、クスツと笑いがこぼれます。このウグイスの鳴き声は、春から夏にかけての繁殖シーズンに、オスがメスにアピールするためのものだと言うことです。それを思うと、初音の幼ない声を笑うのは、ウグイスのオスに失礼な事なのかも知れません。余談になりますが、小鳥の鳴き声には二種類あります。一つが、繁殖期の特別な鳴き声で、これを「囀さえずり」と言います。もう一つは、普段鳴いている声で、「地鳴き」と言います。囀のほとんどが、オスの鳴き声です。ですから、私達が聴いているウグイスの、ホーホケキヨ、ケキヨ、ケキヨ、ケキヨと云う美しい鳴き声は、オスの特別な鳴き声、さえずりなのです。『大言海』（大槻丈彦編）のウグイスの項を見ると、「うぐひは鳴く声、すは鳥の接尾語（ホトトギす、キギす、カラす）」とあります。うぐひが、何故ウグイスの鳴き声なのかと疑問に思い調べてみました。

鳥の鳴き声を写すことばには、「写声語」と「聞きなし」があります。「写声語」とは、実際の鳥の鳴き声を聞こえるままに、言語音で写し取ったものです。例えば、一般的な、カラスの鳴き声をカア、カアと写し取った鳴き声です。「聞きなし」とは、時代背景や聞く人の気持ち、環境の中で写し取られたものです。

例えば、ある事に失敗して気持ちが落ち込んでいる時に、我々が普段使って

いる言葉にあてはめてカラスの鳴き声を、アホウ、アホウと聞き取ったのです。ウグイスのホーホケキヨと云う写声語的な鳴き声^{ウグイス}が定着したのは、江戸時代に入ってからです。それも、ただ単に写声語としてだけでなく、「ほう法華経」と云う仏道に因む、尊い鳴き声として聞き写していました。うぐひと云う鳴き声^{ウグイス}が聞き写しされていたのは、時代を更に遡った平安時代になります。平安時代の歌にこんながあります。

いかなれば 春来るからに うぐひすの

己^{おのれ}が名をば 人に告ぐらん

〔承暦二年内裏歌合〕美作守匡房

「どう云う訳で、春が来るやいなや、ウグイスは自分の名前をば人に告げるのであるうか」と云う意味の歌です。平安時代のウグイスの鳴き声は、主として「ウクヒ」と聞き写しされていました。江戸時代の「雅語^{がごおんじょうご}音声考」と云う書物にも、『ウグイスのホーホケキヨの声は、ウウウクヒとも聞こえる。このウウウクヒに、鳥類であることを示す接辞「ス」が付いて、ウグヒスと云う鳥名が誕生したのだ』と載っています。

種々の鳥の名前の誕生は、姿、形、色彩、鳴き声等、その鳥の特長から付けられていったのですが、ウグイスのように、今私達が聴いている鳴き声から

は想像も付かない「聞きなし」の鳴き声があったとは、新鮮な驚きです。

こうして、ウグイスの名前の誕生一つを取ってみても、日本の文化の奥深さを痛感します。そしてその文化が、自然との共生の中から生まれ育ってきたか

らこそ、世界に誇れるのだと思います。

現在、地球規模での環境破壊が進んでいる事を考えるとき、私達一人一人が真剣に自然を守り、向き合っているかなければ未来はないように思います。

何百年か後の人が、ウグイスの鳴き声をその時代に合った聞きなしで聞けるようにしたいものです。そしてそれは、どんな鳴き声に聞こえるのでしょうか――。



最後に、十月二十三日(金)、二十四日(土)、二十五日(日)のおさだ塾の秋の公演「町かどの芸能」の演目の一つ、鳥笛売りの唄口上のさわりを書き添えて終りとします。ご来場をお待ち致しております。

『柳につばくら、竹雀、梅にうぐいす呼び寄せて』

耳をかたむけ聞いたれば

ホウーホケキヨ ケキヨ ケキヨ ケキヨ ケキヨ

ホウーホケキヨ

参考資料／山口仲美著「ちんちん千鳥のなく声は―日本人が聴いた鳥の声」(大修館書店、一九八九年)

平成二十一年度 在錫者名簿(雨安居)

愛知妙	福昌寺 <small>僧</small>	羽澄一乗	栃木 <small>(夔)</small>	願成寺 <small>徒</small>	長尾徳宏
京都 <small>(相)</small>	豊光寺 <small>徒</small>	佐分承文	香川 <small>(東)</small>	正樂寺 <small>徒</small>	上杉正航
鹿児島 <small>(相)</small>	良福寺 <small>徒</small>	近藤永進	京都 <small>(相)</small>	光源院 <small>徒</small>	荒木文元
福岡 <small>(東)</small>	莊嚴寺 <small>徒</small>	山崎承宗	大分 <small>(妙)</small>	正定寺 <small>徒</small>	小原南陽
京都 <small>(南)</small>	光雲寺 <small>徒</small>	中川秀峰	福岡 <small>(大)</small>	禪壽寺 <small>徒</small>	津田宗山
兵庫 <small>(妙)</small>	霊雲寺 <small>徒</small>	林明慶			

柏林寺
修行体験記

是心寺副住職 和田賢明

関連写真2／4頁

去る平成二十一年二月二十一日より二十八日に至るまで相国寺専門道場師家韜光室老大師を団長に、河北省柏林寺での接心を含む中国の旅に、故拈華室老大師の会下和尚とともに参加させていただきました。

どうしてこの様な計画が浮上したのかといえますと、韜光室老大師の入院式の後、同参にてお祝いの小宴をさせていただいた折に、拈華室老大師の思い出話になりました。私は五年程前に、拈華室老大師のお供で中国旅行に連れて行ってもらったことがあります。その際に柏林寺

にも参詣いたしました。また、韜光室老大師は雲水時代に柏林寺にてご修行された経験があり、因らずも拈華室老大師のご指導の思い出話の中、古徳を偲ぶのももちろんのこと、皆で拈華室老大師を偲んで接心をしないかといった話になり、韜光室老大師も中国の寺院で修行体験をさせていただくというのは非常に得るものがあると仰いましたので、大光明寺の佐々木承玄師に計画をたてて頂くこととなりました。ご本山のほうから中国仏教会に正式にご依頼いただき、柏林寺での接心が可能になり、いよいよ出発の時

が近づいてまいりました。ご本山での開山忌のあと、僧堂に集合いたしました。二十一日午後の飛行機にて北京まで移動し、そこからバスにて石家庄に向かいました。翌日のことを考えてその日は早く休みました。

翌日、柏林寺にての修行が始まる二十日になりました。午前中は、臨濟寺にお参りをしまして、午後に柏林寺に到着いたしました。柏林寺で各所諷経の後、寺務所で、日程表を頂き、いよいよ中国の修行僧と同じ生活が始まりました。

先ずは、中国の僧侶が身にまとうものを支給していただき、晩課に参加いたしました。袈裟をつけ、禅堂より修行僧が一行となって大雄宝殿に向かいます。この建物は非常に大きくて、一時に何百人もお勤めができそうな建物です。全員入堂しますと、入口が閉められ厳かに晩課

りますので十分位前に禅堂に皆で行きました。まずは各々自由に聖僧さんの周りを経行しました。日本では叉手当胸にて行うものですが、中国では両手をブラブラとさせて、自由に歩いても良いとのことでした。ただ一番外側は、住職が歩くコースなので、そこは歩かないようにとのことでした。この経行ですが、時間も二十分くらいは歩くものでしたので日本のそれとは違い、これが坐禅と同じくらい重要視されているのだということがわかりました。修行体験が終わりましてから、柏林寺から頂きました本に、ウォーキングメディテーションと英語で記載がありましたから、おそらく坐禅と同じくらい中国では重要視されているのではないのでしょうか。二十分ほど歩きましたら、おもむろに警策をもった修行僧が、警策を地面にコンコンと打ち鳴らし、何か

が始まりました。鳴らし物が音楽のように奏でられ、人々の誦経の音が、まるで歌のように堂内に響きます。日本語ではありませんので、私たちが理解することはできませんでしたが、真剣な祈りの思いは感じる事ができました。在家の信者さんたちも一緒になつての諷経でした。皆さん真剣に行じておられました。晩課は一時間ほど掛かりました。また寒い二月の中国に夕闇が迫っています。六時から薬石(夕食)を頂戴するために、食堂のほうに移動しました。夕食はもちろん精進料理でしたが、美味しく頂きました。食後に荷物を整理したり、お茶を飲んだりで各々自由に時間を過ごしました。私は韜光室老大師と同室で、いろいろと以前に柏林寺に來られた時の事を教えていただきました。

午後の七時半から禅堂にて坐禅が始まる大きな声でしゃべりました。そうすると皆三々五々、単に向かつて歩いていきます。こういったところは中国的だと思うのですが、決して走ったり、急いだりといった雰囲気がこの後も一度も見られませんでした。むしろ個人個人が自分のペースで行動しているように見えました。皆が坐を組むのを見届けると係りの者が鳴らしものである版木を鳴らして坐禅の時間を知らせます。そうすると、警策を持った修行僧が、ぐるっと一周回ったのち、電気が消されました。聖僧様を照らす電気があるだけで堂内は非常に暗く、静寂に包まれました。警策を持った修行僧が、皆の前をゆつくりと歩いていきます。ただ、それで打ったりということはありません。堂内には暖房が入れられ、膝に毛布をかけた状態ですので、睡魔が襲うのか、グーグーと居眠りしている人

たちもいましたが、そういった修行僧の前を通っても警策で打ったり起こしたりということはありませんでした。一時間ほどして止静が終わった時には心地よい気持ちでいっぱいでした。この日は八時四十五分に坐禅の時間が終わり、後は部屋に戻って休むようにとのことでした。部屋に戻り韜光室老大師とその日一日のことを色々とお話しして眠りにつきました。

柏林寺に来て初めての朝を迎えます。四時十五分、寺の石畳を角材で修行僧が打ち鳴らし、一日が始まります。身支度を整えて、五時から朝のお勤めが始まります。皆、帽子を被っていたり、マフラーをしたりと防寒対策はバッチリです。前日の晩課と同じく一時間ほどの朝課を無事終えて、袈裟をつけたまま食堂に向かいます。食堂では、まずお経を唱えて、給仕の僧侶が給仕してくれるのを待ちま

ます。

この日は前の日とは違って、坐禅の合間にお茶の時間がありました。一応作法らしきものがありまして、それを教えていただいて私たちも供給に挑戦してみました。クッキーみたいなものと、クロワッサンみたいなパンを皆に配ります。お茶は番茶を大きなヤカンからコップに注ぎました。お茶の時間が終わるとすぐに経行です。お茶の片づけを済ますと、我々も皆が歩いている中に参加します。午前十一時に坐禅の時間が終わりました。すぐに昼食の時間です。朝の食事と同じく、正式にお経を唱えて食事を頂きます。やはりおいしい食事でした。午後は一時半から坐禅の時間です。三時四十五分まで坐禅をします。ただ坐禅の時間とはいっても、その間に経行や、お茶の時間がありますので実質坐っている時間は一時間

です。朝からたくさん種類の料理が供給されます。お粥だけではなく、ちよっとした御馳走といった感じのもので。料理は、食べたい物を食べたいだけ頂くといった雰囲気でした。食事が終わりますと、お湯で食器を綺麗にして食後のお経を唱えます。そのあとお経を唱えながらお堂まで行道していきます。最後にそのお堂でお経を唱え終わると、各自が自分の部屋に戻っていきます。私たちも部屋に戻り休息しました。朝の坐禅の時間がすぐにやってきました。やはり禅堂の石畳のところを角材で打ち鳴らし、皆を呼び出します。私たちは時間前に経行していたので分かったのですが、時間通りに禅堂で経行していたのは私たちだけでした。他の人たちは、徐々に集まってきます。皆がそろったくらいところで、合図がなされて午前の坐禅の時間が始まり

半くらいでしょうか。

それからは晩課、葉石、坐禅と前日のスケジュールと変わりなく、一日が終わりました。いよいよ最終日です。やはり朝四時十五分起床。この日は雪が積もっていました。朝課、朝食の時間が終わりました。この日は出坡、日本しゅっぱでいうところの作務を行いました。本堂にて二日間お世話になりました。本尊様の掃除をいたしました。ものすごく大きな仏像が五体、これを雑巾で綺麗に拭きます。中国の修行僧もあまりここには上らないのか、記念撮影をしていました。作務が終わりますと、韜光室老大師のアイデアで、中国の修行僧に日本の料理を食べていただくというところで、味噌汁などを作りました。このとき初めて厨房に入りましたが、ものすごく大きな厨房で一同驚きました。ま

た何人も在家の方がコックとして働いていましたのでこれにも随分驚かされました。昼食時には食事の供給もいたしましたが、供給して初めて分かったのですが、皆自分の嫌いなものが来た時にはいらな気とはつきり意思表示していましたので、日本とのあまりの違いにびっくりいたしました。

食事が終わりますと、柏林寺の僧侶たちと意見交換会がありました。非常に熱心な交流会で皆、われわれの意見に真剣に耳を傾けておられました。意見交換会が終わりましたらいよいよ、柏林寺を出立する時間が近づいてきました。最後に柏林寺のご住職と記念撮影したのち、韜光室老大師を導師に趙州塔に諷経をいたしましたして下山しました。

このようにして中国での修行体験は終わりましたが、参加者皆が得るものが

あった非常に有意義な体験であったことと、この機会を与えていただいたことに感謝いたしております。必ず後の布教の礎となるものだと思います。また中国の僧侶の皆様には大変お世話になり、日本におきましても、ご許可いただきましたご本管長陛下はじめご尽力頂きましたご本山の皆様へ深く感謝いたしまして体験記を終わりたいと思います。

桂道神理
うえ
こう

〒604-8356
京都市中京区大宮通錦上ル
電話〇七五八二一三八七二

第四教区若狭少年研修会四十回記念特集

第四十回若狭少年研修会 式次第

平成二十一年四月二日 大本山相国寺 於 方丈

十時半 開会式（進行 教学部長）

一、般若心経・消災呪・本尊回向

導師・宗務総長 維那・財務部員

魚鱗・教学部員

二、宗務総長法話

三、若狭相国会々長挨拶 平田一郎氏

四、念珠・記念品授与 宗務総長

五、四弘誓願

十一時 坐 禅 於 書院

十一時半 諸堂拝観 法堂・浴室

正午 齋座（カレー） 於 食堂（出頭門の間）

以上





開講式



江上総長法話



記念品授与



坐禅指導



齋座(カレーライス)

毎年学校の休みを利用して本派第四教区では、少年少女のための研修会を本山で行っている。これは臨済宗相国寺派の檀信徒として、自分の家の宗教を様々な角度から勉強する好機となっている。そして坐禅やお経を読んだり、禅の作法による食事などを通じて小さな体と心に大きな成果を上げてきた。これもひとえに昭和四十四年第一回開催当時の西安寺先住故木

下正堂宗務支所長、故渡辺清相国会会長より、現支所長善應寺住職五十嵐祖傳住職、平田一郎同国会会長に至る歴代の支所長、四教区相国会会長を中心とした派内の寺院、相国会会員の世話人方々の熱意があればこそである。本年節目の四十回を数えるにあたり、誌面を拡張して特集を組むことにした。

第四教区若狭少年研修会四十回記念に寄せて

宗務総長 江上泰山

昭和四十五年(一九七〇)の一月一日発行の円明誌第十四号本山だりによると、第一回若狭相国会児童研修会が前年の七月二十八・二十九日の両日に亘り、本山主催のもと行われたとあります。現在は少年研修会と名称が変更されましたが、当時の第四教区宗務支所長木下正堂師と同教区の相国会々長であられた渡辺清氏の発願により開催されました。当時は一泊二日の日程でしたが、坐禅やお話し、そして御所の拝観もあったようで、朝早く起きての拭き掃除や、なかでも坐禅は特に辛い修行

であったようです。感想文を寄せた当時中学三年生であった佐藤一美さんによると、当時の管長であった大津樞堂老師の法話の中で「人間というものは精神を統一して何事もしなくてはいけない」とおっしゃった言葉を受けて、「私は何もできないけれど、「精神一到何事か成らざらん」とのお言葉を思い出して、明日とはいわず今日から頑張りたいと思っている」と結んでおられます。

また特別講師として小学校教育の権威者の一人であられた今井利長先生の「月へいった兎」には先生の熱心なお話しぶりにいつの間にかひきまされ、丁度昭和四十四年は米国のアポロ十一号が月へ着陸した直後であっただけに特に感銘を受けたとあります。

早いものであれから四十年、当時小学六年生であった参加者も五十歳代前半から半ばを迎えておられ、日本経済の発展の為に寄与されていると思われませんが、円明誌各号の感想文の中でも、第四回の研修会に参加された正法寺檀家の松宮幹夫氏(当時小六)の文章の中に次の様な文章がありますのでご紹介しますと、「和尚さんのお話しの中に、自分の事は、犬でも猿でもやれるが、人間は、他人の事をする人間になれと、おっしゃったが、仲々むずかしく、自分の事をするのがせい一杯だった。これからは、自分の事をあとにして、他人の事を先にしようと思っています。」とあります。

この考え方こそが、正に日本に伝わった大乘仏教の根幹をなす考えであり、「自分の事はさておき先ず他を救え」という所謂菩薩行ききょうであり利他行の考え方です。日本中、否、世界中の人達がこの考え方をもってお互い助けあつて行けたら醜い争いや、戦争もなくなるのではないかと儚い期待をもっておる次第です。

最後に私が少年研修会に教学部員として係わったのは、昭和四十七年の第四回目からで、その当時の教学部長は有馬頼底現管長現下でした。坐禅の時間になると幼い小学生の背中にビシビシと警策を当てるものから、皆んなが怖がって坐禅にならないと木下正堂師に叱られた事や、就寝前の二時間ほどを映画の上映するのが通例となっていて、管長現下と一緒に軽自動車現で西本願寺近くの島原にあった京都市視聴覚センター現に行き、重い十六ミリ映写機と教育劇映画と短編マンガ等のフィルムを借りて来て手探りで上映した事などをなつかしく思い出します。

青少年の人間形成にはこの様な研修会は欠く事の出来ない行事の一つでありますので、今後共若狭相国会の大きな行事の一つとして尚一層のご精進をして頂くよう祈念して四十回記念に寄せる言葉と致します。

第四教区相国会少年研修会四十周年を迎えての追憶

龍虎寺住職 田村周山

相国会主催の少年研修会は昭和四十四年に発足し今年で四十周年を迎えました。当時を思い出しますと、終戦後二十余年を経過し東京オリピックで世情は変り、生活も安定経済も高度成長期で、子供会の活動も盛んになり、又四十三年には福井国体が開催されて、天皇皇后様も当地に行幸啓され、みすばらしい国道や町や村中を遠慮して通っておりましたが、大いばりで通行出来る現在の道路が新設され、観光バスも通るようになりました。これらの世情が反映したのでしょうか、老人達の本山参りは終戦後復活しているのに、最も大切な少年の教育がなおざりになっているということ、第四教区二十九ヶ寺の相国会々員皆様の熱望で、此の研修会がスタートしました。

八月の夏休みを利用して一泊二日、ベビーブームの時代、子供達は修学旅行の気分、バス二台の補助席も満杯になる程大勢の参加者がありました。若狭から本山迄二〇〇キロの道のりを朝七時に出発し、舞鶴、綾部を通り早朝の為今日のような道や駅もなく、京都市内に入れば渋滞し、車酔する子供もありましたがすぐ元気になりました。

特に京都の夜はむし暑く、蚊取線香をたき障子をしめきっても蚊の集来は防げず、男子は方丈、女子は書院で寝ましたが暑くて眠れず、枕投げや走り廻るので襖や障子を傷つけないか心配の為、付き添いの役員さん方は夜通し起きておられました。

又昭和四十六年に一回だけ本山の都合でお参り出来ず、和田高浜地区は海水浴客であふれて開催は無理な為、急遽大島の海岸寺で一泊二日の研修会を御世話になりました。陸路は行けず、舟で総勢六十余名、タオルケット持参で参加し、環境のよい所で海にも近く好評だった事をなつかしく思い出します。

最近は道路状況もよくなり今津、琵琶湖大橋、途中を経て本山へ、帰りは綾部舞鶴の行程で日帰りで目的が達せられるので、四月春休みに研修会をするようになりました。本年は少子化の影響で参加児童数四十八名、住職役員十五名の少人数で例年どおりバス二台に分乗し、四十周年を祝ってか好天に恵まれ、例年は色づかぬ櫻の花も今年は八分咲きで迎えてくれました。十時に本山着、本山の和尚様のお出迎えあり、開講式では般若心経、消災呪、白隠禪師坐禅和讃を子供達と共に読経、宗務総長様、第四教区相国会々長様の御挨拶、数珠授与があり、法話、坐禅、諸堂拝観後、昼食では食事五観文読経の後、毎年好評のライスカレーを感謝して戴き、午後一時出発。

鹿苑寺本堂では金閣寺拝観の多数の客が歩く姿を見、和尚様のお話を拝聴後、多勢の観光客に押されながら、終戦後間もなく世情不安定で食事にもこと欠く雲水時代で特に強く印象に残っているのですが、金閣が焼失し、村上慈海和尚様が命にかけて再建されていたお姿を思い浮べ、そのお陰で此の美しい寺が拝める事を喜び乍ら歩きました。

次に嵐山に立寄り満開近く咲きほこる櫻並木の下をくぐり、時雨殿に立寄り、所狭しと並べられた百人一首の札や、床に張られた札とのゲームを楽しむ子供等と共に遊び、帰路につきました。途中みやげ物店に立寄り、夕方七時、予定通り帰着し、父兄の出迎えを受け、お礼の声を背に四十周年記念の研修会を終了しました。

本山創設六百年余の長年月中には応仁の乱や明治維新等数多くの内戦や、神佛分離等、政治の圧迫がありました。が、本山の建物や臨濟禅は厳然として祖師方の御力で伝修されています。その御恩を忘れず、此の研修会を通じて少しでも将来の生活のかたとし役立てて貰えば幸いです。長らく続けて来られたのは会員皆様の御盡力のお陰です。心から御礼申し上げます。此の会の将来の発展を祈念し四十周年記念の追憶を書かせて戴きました。

研修会に参加した事

真乗寺檀徒 犬嶋日向子

わたしは、研修会に参加してとてもよかったです。大本山相国寺でおしろうさんのお話を聞かせてもらいました。和田村で生まれ、十三さいで金閣寺に行つて修行され、相国寺の宗務総長になられていて

「すごいえらいなあ」と思いました。

おしろうさんは、「自分をみがこう」といつておられたので、わたしもこれから将来に向かつてがんばっていきたいと思いました。

お話のあとに、ざぜんをしました。ようち園の時、毎月していました。が、せすじがびんとして気持ちが悪くなりました。ようち園の時は、毎月していました。そして、昼食にカレーライスを食べました。食べた器にお茶を入れ、きれいにしました。家でも、お茶わんにお茶を入れてきれいにごはんづぶをさらえてのみました。

バスの中で、おしろうさんが「あいさつをする」「はいという返事をする」「あとかたづけをする」ということをいつておられたのでわたしも、今から守っていききたいなあと思いました。

本当に、研修会に行つてよかったです。

(以下、44頁に続く)

釈尊の足跡を訪ねて 二

竹林寺住職 牛江宗道

ガンジス河の沐浴風景を見学した私達は、午前八時、ホテルに帰り朝食を取った後、午前九時、一路釈尊成道の地・ブツダガヤーへと向かって出発しました。ヴァーラーナシーからブツダガヤーまでは、直線距離にして約二百七十料キロメートルですが、私達のバスは途中大変な交通渋滞に巻き込まれ、目的地ブツダガヤーのロータス・ニコニー・ホテルに着いたのは、夕方六時近くでありました。このホテルは、小ぎらいで瀟洒なホテルでしたが、食事はあまりおいしくありませんでした。夕食後部屋に戻って、同室の妙心寺派観音寺住職山崎忠司師と、ビールを飲みながら禅話に浸りました。

五 前正覚山

十二月九日(第四日目)、午前四時半、起床。同五時未明の中、私達はバスで釈尊がお悟りを開く前に、苦行生活をされた山、前正覚山へと向かいました。『大唐西域記』巻第八には、「前正覚山より西南へ行くこと十四、五里で菩提樹に至る。」と書かれています。私達は、ブツダガヤーから東北方向へ、大きな河尼連禅河(ナイランジャナー河)を渡り、前正覚山の麓まで行き、バスを降りました。そして、うす暗い山道を、山の中腹にある、釈尊が坐禅を組み、また眠られたであろう石室を目ざして登りました。石室の中はおよそ二

畳ぐらいの広さで、少し暖かく感じました。この中で釈尊はきつと雨露を凌がれたのであろうと思いました。ここで苦行すること六年、骨と皮だ



尼連禅河(ナイランジャナー河)

けの身体となっても、正覚(悟り)の得られなかった釈尊は、苦行を棄てる決心をし、山を下り麓を流れる尼連禅河で沐浴して、スジャータの布施ちちがゆした乳粥を召し上がり体力を幾分か回復されて、この前正覚山から、乾季のため水量の減った尼連禅河の川底を歩いて渡って対岸の町ブツダガヤーの菩提樹下に至ったのであろうと私は想像しました。そして、釈尊はこの菩提樹下の金剛座で、一週間の不眠不休の坐禅に入り十二月八日の未明ついに成道されたわけであります。



前正覚山(左手奥に石室)

釈尊成道

苦行六年皮骨残
下山沐浴瘦心身
渡河静到金剛座
八日未明成道人

(宗道拙作)



石室内に祠られた瘦身の釈迦牟尼仏

六 ブツダガヤ

前正覚山からバスでホテルに帰り、朝食を済ませた私達は、いよいよ四大仏蹟のひとつブツダガヤの中心をなすマハーボーディ寺院(大菩提寺)を参拜に出掛けました。私達は、高さ五十二メートルの大塔の中に入り、御本尊の金色の釈迦牟尼仏の前で、全員で般若心経を唱え礼拝しました。そのあと外に出て、釈尊の悟りを開かれた金剛座とその上を覆っている大菩提樹を拜見致しました。現在の樹は四代目であると聞きました。また、お線香を焚くと樹が枯れるため、焼香は禁止されていました。

本当に多くの人々が世界各地からお参りに来られていました。チベット僧の方々は、大塔の周囲で坐具を敷き五体投地の礼拝行を終日されていきました。また、ある僧侶は、拡声器を使って、大きな声でマントラを唱えています。ものすごいエネルギーに満ち溢れていきます。サールナーの静けさと好対照をなしておりました。

私は、この大塔の傍らの適当な所を見つけて、皆からひとり離れて、一炷の坐禅をしました。三十分ぐらい坐りましたでしょうか、迷子になってしまいました。しかし、大菩提寺に入ったときから始終付きまといて来ていた、日本語の堪能な、数珠売りのインド人チットさんに、私が迷子になったことを言うと、彼は親切にもバイクに私を乗せて、無情にも私ひとりをほったら

かしにして出発した皆のバスを追いかけてスジャーター村まで送って合流させてくれました。私は結局数珠は買わなかったのですが、彼の親切に対して心ばかりの御札を差し上げた次第であります。さて、昼食後は、私達はブツダガヤに別れを告げて、次の目的地、ラージギール(王舎城)へと向いました。バスはブツダガヤから尼連禅河を



高さ52メートルの大菩提寺大塔



金剛座を覆う大菩提樹

渡り北上してゆきます。ラージギールの近くに
なると、風景が大きく変わりました。それまで
の稲作の田園風景から山の景色に変わります。王
舎城は山に囲まれた観光都市でありました。

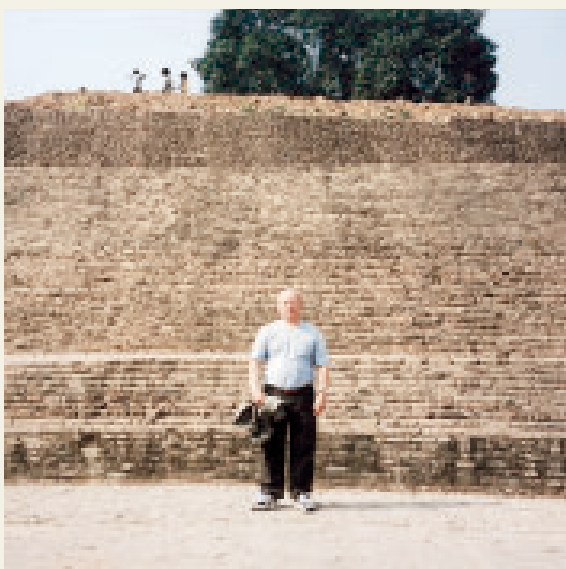
七 ナーランダー

私達のバスは、ラージギールを通り過ぎてそ
の北方十一^{キヤト}にあるナーランダーへと進みまし
た。ここは、かの玄奘三蔵法師が七世紀前半に
やって来られて、五年間仏教を学ばれた、ナー
ランダー寺(那爛陀寺)のあったところでありま
す。ナーランダー寺は、五世紀(四四〇年頃)グ
プタ王朝の第四代目の王、クマールラグプタ(帝日)
王が創建したお寺であります。その後、代々の
王が寺域を拡張したので、ナーランダー遺跡は、
現在南北六百メートル、東西二百メートルの
広大なものになっております。

ナーランダー寺は、一時期ここで仏教を学ぶ
僧侶が一万人以上もあったそうで、インド仏教
の中心地となっております。しかし、十二世

紀の終わりの頃にイスラム勢力によって破壊さ
れました。

因みに、ナーランダーの近辺には、釈尊の十
大弟子の一人、神通第一と言われた目連尊者の
故郷、コーリカ(拘理迦)村があり、また、智慧
第一とうたわれた舍利弗尊者の故郷、カーラピ
ナーカ(迦羅臂拏迦)村もあります。



遺跡を背にして(筆者)



ナーランダー寺遺跡

八 竹林精舎跡

次に私達は、ラージギールに戻る途中にある
竹林精舎跡を訪ねました。私が住職をしており
ます竹林寺の寺号の出所でありますので、今度
の旅でこの精舎跡を訪ねるのが楽しみでありま
した。竹林^{ちくりん}が残っていましたが、インドの竹は
日本のそれに比べますと、どこか少し趣が異っ
ておりました。

『岩波仏教辞典第
二版』に依りますと、
竹林精舎は次のよう
に説明されています。

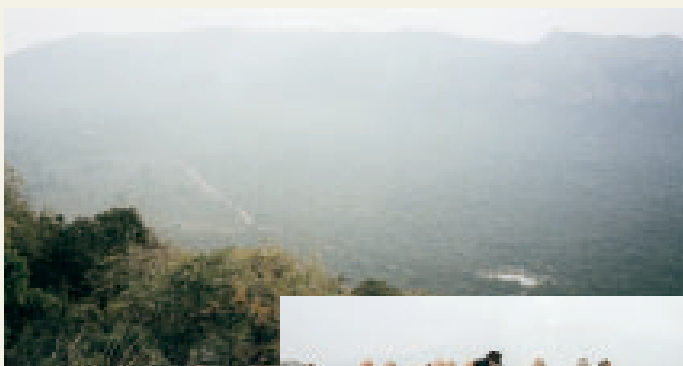
「中インドのマガダ
国の首都王舎城に建
てられた最初の仏教
寺院。… 釈尊と僧
団のためにカランダカ
長者が奉獻した竹林
に、マガダの国王ビン



竹林精舎跡(右手に竹)



靈鷲山山頂付近



山頂より旧王舎城を見下ろす



靈鷲山山頂(中央祭壇)



美しい公園に整備されている

ビサーラ(頻婆娑羅)が伽藍を建立した。祇園精舎・大林精舎などともに釈尊がしばしば滞在し説法した精舎の一つ。」
因みに、天竺五山は、竹林精舎、祇園精舎、大林精舎、誓多林精舎、那爛陀寺の五つであります。

九 ラージギール(王舎城)

ラージギール(王舎城)は、釈尊在世中にあった古代インド十六大国の一つのマガダ国の首都であります。サンスクリット語でラージヤグリハと言います。ラージギールという言い方は現在のインドで呼ばれている名前であります。

ラージギールは、マガダ国最大の都として文化的、経済的に隆盛していました。釈尊が最も長く居住されたところで、竹林精舎や靈鷲山などがあり、多くの説法がなされたところでもあります。釈尊は八十歳になられたとき、靈鷲山で修行僧たちのために、《法に関する講話》をされたあと、ここから最後の巡教の旅へと出発されています。

さて、十二月十日(第五日目)、午前四時半、起床。同五時半、夜明け前、私達はこの靈鷲山を登拝すべくホテルをバスで出発しました。しばらくして、山麓に着きバスから降りて、ビサーラ王の造った道を山頂まで、未明のうす



ビンビサーラ王幽閉の獄舎跡

暗い中、ゆつくりと皆で登りました。野犬がたくさんいました。三十分程登りますと山頂に着きました。山頂には、祭壇が設けられており、この前で私達は般若心経を誦読して一炷の坐を組みました。

山頂には爽やかな空気が流れており、時折鳥の鳴く声も聞こえて来ました。やがて東の空が明るくなって来て、御来光を拝むこともできました。眼下には、緑の木木で覆われたギリヴラジャ(旧王舎城)を見下ろすこともできました。本当にすばらしい景色でありました。

山頂の周囲には、四つの大きな石室がありました。阿難尊者、目連尊者、舍利弗尊者、摩訶迦葉尊者がそれぞれの中で坐禅瞑想された石室であります。山を下りた所には、釈尊を亡きものにしてしようとしたデーヴァダッタ(提婆達多)にそのかされたアジャータシャトル(阿闍世)がその父ビンビサーラ王を幽閉した牢獄跡がありました。大きな^ニニ(牢屋)でありました。父王はこの中で獄死するわけですが、王位を継い

だアジャータシャトル王は、後に改悛して仏教

の強力な帰依者となります。釈尊入滅後の第一回仏典結集の際には、必要な資材の一切を供与したということがあります。

残念ながら今回の旅では、私達はその第一回結集の行われた七葉窟を見ることは叶いませんでした。

午前七時半、ホテルに帰って朝食を頂いたのち、同八時半、私達は次の目的地ヴァイシャーリーへと向いました。

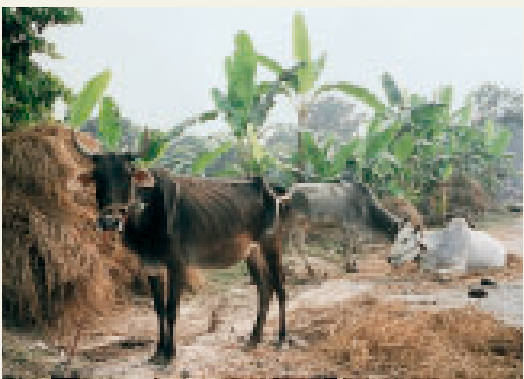
十 ヴァイシャーリー

私達のバスは、北へ北へとひた走り、やがてビハール州の州都パトナに入りました。浴道の景色が一気に賑やかになります。とある村でバスを止め、インド人ガイドのアシユラさんが、この辺の有名な菓子「カージャ(意味は食べて下さい)」を皆さんに食べて下さいと言って買って下さいました。カラッと油で揚げたパイのような甘いお菓

子でありました。

バスは、パトナのマハトマガンジールロードを走り、ガンジス河に架かる十一^{キロメートル}軒もある大きな橋を渡りました。ガンジス河の大きいことに改めて驚かされた次第であります。川岸にはたくさんのバナナの樹が植えられているのが見えました。日本人添乗員の志賀建華さんが私達に食べて下さいとバナナを買って下さいました。パトナはバナナで有名な都市でありました。このバナナ小売めですが、甘くて本当においしいバナナがありました。

さて、ヴァイシャーリーには、私達は午後二時頃着



ヴァイシャーリー遺跡に至る道にて



ヴァイシャーリー遺跡

いたように記憶しています。ここヴァイシャーリーは、釈尊の遺骨が八つに分配された所のひとつでありました。それ故、釈尊八大仏蹟のひとつに数えられています。

私達は、その遺骨を埋葬して造られたストゥーパ(仏塔)を解体調査した跡を、運よく見ることができました。このストゥーパ跡からさらに五分ばかり歩くと、大きな仏蹟が現われ、アシヨーカー王の建てた、上にライオンの坐像を頂いた記念柱も見ることができました。

ここでも私達は、遺跡の前で般若心経を唱え釈尊に回向致しました。また、ヴァイシャーリーは、かの大資産家であり、在家の大菩薩であった維摩(ヴァマラキールティ)居士の住まわれていた所でもあります。この維摩居士の居室は、一丈(約三メートル)四方(約四畳半)の広さであったところから方丈と呼ばれ、禅寺で住職の居室を方丈と呼ぶようになりました。初期大乘経典の代表作のひとつが、『維摩経』ですが、このお経の主人公が経摩居士であります。因みに、相国

寺本山には、在家の坐禅会「維摩会」があります。その名の由来はこの維摩居士から来ております。

また、ヴァイシャーリーは、釈尊が最後の旅で立ち寄った所でもあります。遊女アンバパーリーのために説法をし、その御礼に食事の接待を受けた所であります。

私達は、午後三時頃ここヴァイシャーリーをあとにして、次にケサリア仏塔参拝へと向いました。ケサリア仏塔とは、今から二三五〇年から二四〇〇年前頃、アシヨーカー王の時代に造られた一番古く

て一番大きな仏塔らしいのですが、中に誰が葬られているかもわかっていない、現在発掘調査中の仏塔であります。この仏塔に着いたのは、インドの道路状況があまりよくなかったために、何と夜の七時半頃でありました。真暗闇の中、バスのヘッドライトで仏塔を照らし出し、私達は仏塔の山に登ることもでき、懐中電灯をもち出



アシヨーカー王の記念柱

して、まじまじと拝見した次第であります。

この日一日の行程を終えて、クシナーラーの宿ロータス・ニッコー・ホテルに着いたのは何と深夜〇時近くでありました。夕食は午前〇時を過ぎて頂きました。もはや疲れ切って食欲はありませんでしたが、皆さん不平不満ひとつもさず、格別美味しくビールを頂きました。

研修会に参加して

真乗寺檀徒 山田なつの

私はお寺の研しゅう旅行をととても楽しみにしていました。どんな所なんだろう、どんなことをするのだろうかとうきうきしながらバスに乗りました。相国寺はとでもりっぱなお寺でした。初めにみんなでおきょうを唱えました。それから、おきょうさんの話がありました。おきょうさんの話の中で、「自分をみがきましょう」という言葉が心に残りました。おきょうさんの話が終わったら、私たちがおきょうさんからじゅずやファイルをもらいに行きました。もらいに行く時は、少しきんちょうしました。ファイルはとても重たかったです。それから、ざぜんを組みました。前にもやったことがあったので、二回目のざぜんでした。でも、今日は「くつ下をぬいで下さい」と言われたり、あぐらのかき方なども教えて下さったので本かく的に組むんだなあと思いました。ざぜんを始めて少ししたら足がしびれてきました。少し足を動かしてしまいました。おきょうさんが私の前を通った時は、ドキッとしました。そして十五分がたち、ざぜんが終わりました。おきょうさんが最初に言われたとおりで、テレ

ビを見ている時やゲームをしている時の十五分よりざぜんをしている時の十五分の方がととても長いように感じました。それから、天じょうにりゅうの絵がかいてある所へ行きました。りゅうの絵の下で手をたたくと、ひびいた音がりゅうの鳴き声のように聞こえました。だからそのりゅうは、「鳴きりゅう」というそうです。それからお昼を食べに行きました。お昼はカレーライスだと知ってヤッターと思いました。私の大好きなカレーライスをみんなで楽しく食べるのだと思っていたからです。部屋に入ったら、私が思っていたようなふん囲気ではありませんでした。席についたら、おきょうさんが、「食事もざぜんです」と言いました。私はびっくりしました。「えっみんなと話をせずに食べるの」と心の中で思いました。それから、静かにカレーライスを食べました。カレーライスが入っていたお皿にお湯を入れて飲みました。飲み物も同じお皿で飲むなんてびっくりりました。お寺での食事は、家での食事とちがう所がたくさんあるんだと分かりました。私は、今日相国寺でざぜんや食事のこと以外にも、いろいろな事を学んだと思いました。今日は、とてもきちょうな体験ができてよかったです。また、こんな機会があったら、参加したいです。お世話になったおきょうさん、役員のおじさん、相国寺のみなさんありがとうございます。

本山参りに行ったこと

正法寺檀徒 中嶋つばさ

四月二日春休みに、京都の本山相国寺に行きました。和田駅前より観光バスで五年生の友達と、おしよ様、お寺の役員様とおしよに出発しました。

最初本山に着き、みんなで「ぎぜん」をしました。ぼくは三回目だったので少しなれていました。

次に「心経」をみんなでよみました。ぼくは、家でおじいちゃんといっしょに練習をしていたので、すらすら言うことができました。

また本山のおしよ様のお話があり、ぼくの家のお寺で生まれた人でありっぱなおしよ様で、お話の中で昔の子どものころのお話をして下さりうれしかったです。

次に「はつとう」で天じょうの大きなりゅうの絵を見ました。このりゅうは鳴きりゅうといわれており、下で手をたたくと上から音が聞こえて来ました。

次はまたバスに乗り「金かく寺」に行きました。「金かく寺」は去年も来たのであまりびっくりしませんでした。みんなでおみやげ屋さんに行き、

みんなは初めてだったのかいろんな物を買っていました。ぼくは次の「嵐山」でみんなといっしょに楽しくおかしやおみやげを買い、楽しい本山参りをする事ができました。また「じゅず」をもらいありがとうございました。

若狭少年研修会四十回記念特集によせて

教学部長 佐分宗順

昭和四十四年（一九六九）第一回若狭少年研修会が開催された。アポロ11号が月面着陸に成功した年である。翌年には大阪万国博覧会が開催される。そしてその翌年には沖繩が日本に返還され、その後世界の金融は変動相場制に移行している。以来四十年以上に亘って若狭少年研修会は続けられてきた。

当時の子供たちと今の子供たちは果たしてどれほど変わっただろうか。この四十年間に世界は大きな変動を遂げて、世界の構造も大きく変わろうとしている。しかし発足当時の子供たちの感想文と現代

の子供たちの感想文を読みながら、子供たちの感動や心の動きはそれほど変わらないと感じる。これからもそうあり続けるとは限らない、むしろ知らず知らずのうちに変化していくのであろうと思われる。私たちはこれから、子供たちに何を伝え、どうつきあっていけばよいのか。考えさせられる節目である。

今日までこの研修会が続けてこられたことは、大きな財産として今私たちの前にある。この研修会の発展に努力された多くの和尚方、相国会役員の方々、本山の和尚方の努力に感謝し、今後のさらなる発展を期したい。

○第五回臨黃教化研究会

二月九〜十日、花園大学において臨黃合議所主催による第五回臨黃教化研修会が開催され、本派一教区より普廣院副住職山木雅晶師、慈照院副住職久山哲永師、真如寺副住職江上正道師、二教区より竹林寺住職牛江宗道師、大應寺住職久山弘祐師、是心寺副住職和田賢明師、四教区より海岸寺住職石崎靖宗師、六教区より光明寺副住職松本昭憲師、永徳寺住職松下恵悟師の九名が参加、また開講式に江上宗務総長、佐分教学部長が出席、佐分部長は研修中随時出席し研修生の指導にあたった。本派若手和尚等は他派の和尚方と一緒にあって研鑽を積んだ。

○大理崇聖寺訪問

二月二十日より二十五日まで中国雲南省大理崇聖寺に於いて、日中臨黃友好交流協会と崇聖寺との友好寺院協定の批准式が行われ、本派より交流協会々長の管長始め、江上泰山宗務総長、荒木元

二月二十二日 式典でのあいさつ

臨濟宗相国寺派管長 有馬頼底

尊敬する大理崇聖寺、崇化法師。

尊敬する中国仏教協会副会長、学識法師。

尊敬する雲南省仏教協会会長、刀述仁先生。

中国仏教協会の諸大徳、本日ご列席の諸先生方、日本臨濟宗黄檗宗 大理崇聖寺四僧塔訪中団を代表して一言ご挨拶申し上げます。

二〇〇七年一月に、日本において大理崇聖寺と日中臨黃友好交流協会とが友好寺院関係を締結し、本日、大理崇聖寺において友好寺院締結記念式典が行なわれましたことは誠に喜ばしく、日中友好、仏教文化交流、両国仏教の益々の発展興隆に努めてゆきたいと思えます。

仏教は中国が大先輩であります。中世以来、幾多の留学僧が中国において学び修行して帰国し、日本禅宗の発展に努めてきたことは周知のことです。本日、日本人留学僧の四僧塔を拝し、その感を深くしたのであります。

一九九二年に開封市大相国寺と京都相国寺と

悦光源院住職、澤宗泰林光院住職、小出量堂桂徳院住職、中川弘道大雲寺住職、久山弘祐大應寺住職が出席した。また崇聖寺とは縁故の建仁寺派も小堀泰巖管長猊下他、御一派の寺院、在家等数十名が出席された。



崇聖寺大雄宝殿



批准式署名

の友好寺院締結式の祝辞で、故趙樸初中国仏教協会会長は、「この友好寺院の締結は、中日両国仏教友好親善の新たな印と出発点と見なすべきであろう」と申されました。

この度の締結も、まさにそのお言葉通りであらうと存じます。

私たちは、今後の交流において、手を携え、肩を並べ、一体となって仏法を高揚し、普く衆生を救済し、日中両国人民世代にわたる友情を發展させ、アジア、そして世界の平和に新たな貢献を捧げましょう。有難うございました。

○柏林寺接心

二月二十一日より二十八日まで、大通院(相国寺僧堂)住職頼光室老大師を団長に、総勢六人が中国仏跡巡拝中に極寒の河北省柏林寺(明海住職)で、柏林寺の修行僧と共に三日間に亘って接心をした。一行はその後相国寺と友好寺院締結をしている河南省開封の大相国寺(釋心廣住職)や四祖寺、五祖寺を表敬訪問し、大歓迎の中お互いの友好を深めた。参加全員の名簿は左の如し

(関連写真巻頭カラー、関連記事17頁)

○春秋巡教

二十一年度春秋巡教は松本憲融師(六教区光明寺住職)が三月十三、十四日に京都府綾部市内の東福寺派寺院を四ヶ寺、十五日から二十日まで、主に京都府福知山市内の南禅寺派寺院を十一ヶ寺、石崎靖宗師(四教区海岸寺住職)が三月十三日から二十三日まで、佐賀・長崎地方の南禅寺派寺院を十五ヶ寺、牛江宗道師(二教区竹林寺住職)が三月十八日から二十二日まで、本派六教区(鹿児島・宮崎)を七ヶ寺布教した。

○骨灰法要

三月二十三日、本山方丈において、京都中央斎場・宇治市斎場主催、京都仏教会、京都中央葬祭業協同組合協賛により春季骨灰法要が厳修された。開式に先立ち佐分教学部長が法話を行い、その後管長を導師に内局全員が出頭して法要が行われた。今年も千人を超す遺族や関係者が焼香に訪れ、心静かに故人の冥福を祈った。

○若狭相国会少年研修会

四月二日平成二十一年度若狭相国会少年研修会

団長	大通院住職	小林 玄徳老大師
団員	是心寺副住職	和田 賢明師
	大徳寺派本岳寺住職	松本 浩舜師
	大光明寺徒	佐々木 承玄師
	林光院徒	澤 宗秀師
	相国寺僧堂雲納	羽澄 一乗師

○東京別院開山忌並観梅茶会

三月三日、東京別院において開山忌が厳修され、管長導師のもと江上総長はじめ一山が出頭した。その後は恒例の観梅の釜がかかり、招かれた客は茶室「正覚庵」で管長自らのお点前による濃茶を頂き、二階書院で江上総長席主の薄茶を楽しんだ。また点心席での接待や来客の案内等、山木鹿苑寺執事長、平塚慈照寺執事長はじめ一山尊宿が務めた。

○定期宗会

三月九日、平成二十年度定期宗会が本山会議室で開催され、鈴木元拙師(四教区向陽寺住職)が議長に選ばれ平成十九年度本派、本山決算報告、同二十一年度本派予算案、事業計画案等が審議され承認された。

が、本山方丈において行われ、学童四十三名、寺院八名、役員七名が参加した。研修会も今回で四十回を数え、参加した多くの青少年女達にとって忘れたくない貴重な経験となっている。本年初登山の子供達も、江上総長の法話を聞き、慣れない坐禅を体験した。そして本山より記念品として数珠とクリアファイルが贈られ、別室にて本山女子職員お手製のカレーライスを頂いた後、鹿苑寺や嵐山を拝観して、無事帰路に着いた。

(四十回記念特集23頁)

○拈華室老大師小祥忌・頼光室老大師入院披露

四月十三、十四日僧堂(大通院)において故田中芳州老大師の小祥忌(一周忌)が厳修された。十三日宿忌では小林玄徳老大師(頼光室)導師のもと楞嚴行道が行われ、その後小林老大師の大通院入院披露の諷経があり、管長始め約百名の会下寺院、縁故在家が老大師の大通院住職就任を祝った。明けて十四日半斎では小林老大師導師のもと、本派管長、国泰寺派澤大道管長、南禅寺僧堂師家日下元精老大師、南禅寺派光雲寺住職田中寛洲老大師、江上宗務総長はじめ一山尊宿、大通会、縁故寺院、

田中家の方々が参列し、楞嚴行道・塔參諷経が厳修された。法要後の齋席では若くして遷化された拈華室老大師の遺徳を偲んだ。

入院偈・半齋香語は左の如し。

大通院入院偈

先師竹篋古風騰 先師の竹篋、古風を騰わかす
全幅慈悲密付懲 全幅の慈悲、密付を懲わからす
惟恨開創国師會 惟みるに開創国師の會を恨まん
大陰涼樹宿根弘 大陰涼樹の宿根を弘めん

芳州先師小祥忌

全励兀然提極玄 全励こつね兀然極玄を提す
唵傳種草祖門鞭 唵しく種草祖門の鞭を傳う
鶯花同舊金容普 鶯花舊むかに同じく金容普し
空舞靈鳳微笑禪 空を舞う靈鳳微笑の禪
右 紹信九拜
定中昭鑑

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

四月十九日、三教区瑞林寺(長谷寺高山宗親住職兼務)では開山毎歳忌が厳修され佐分教学部長と

草場周啓慈雲院住職が拝請を受け出頭した。

(関連記事59頁)

○慈雲院先住寺庭逝去

五月十八日、慈雲院先住(故樋口月堂師)寺庭の樋口弥生氏が八十三歳で亡くなられた。氏は寺庭として先住をよく支え寺院の発展、護持、布教に尽力し、また月堂師遷化の後には社会福祉法人和敬学園理事長職を引き継ぎ、長年福祉活動を精力的に行ってきた。今般疾により加療するも薬石功無く天寿を全うされた。葬儀は五月二十二日江上宗務総長導師のもと厳修され、一山尊宿、縁故在家など多くの参列者があった。

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(平塚景堂執事長)では開山忌並びに開基(足利義政公)諷経が厳修された。法要に先立ち当寺華務花方佐野珠寶氏による献花が行われ、引き続き江上宗務総長を導師に一山尊宿、縁故寺院により諷経がなされた。

○日田辯財天春季大祭

五月二十五日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭並びにお火焚祭が厳修され、管長を導師に、荒木前宗務総長、山木鹿苑寺執事長、矢野教学部員、久山哲永慈照院副住職が出頭して大般若が転読された。法要後は集まった信者全員に管長はじめ出仕の僧らが一人ずつ厄落しの祈持をした。尚、例年春秋二回の法要を行っていたが、今年から春一回のみの開催となった。

○相国会本部役員会

五月二十九日午後一時より本山会議室において、平成二十一年度相国会本部役員会が開催された。一教区理事の片岡匡三氏を議長に選出して審議に入り、平成二十年度事業・決算報告、二十一度予算案、事業計画案がそれぞれ承認された。尚、長年相国会の理事に就任されていた三教区理事横山卓氏の逝去にともない、相国会から香資をお供えすることが議決された。当日の出席者は左記の通り。

第一教区 片岡 匡三 山木 康稔
第二教区 波多野 外茂治 牛江 宗道

○前堂転位式

六月一日、開

山堂にて三教区
法雲寺(大塚月
潭住職)徒弟の
加藤幹人師の前
堂転位式が挙行



された。師は岐阜瑞龍僧堂(妙心寺派)で長年研鑽を積まれた。法雲寺は名門赤松家縁の名刹で、近年大塚住職により立派な禅堂も建立された。加藤副住職の今後の活躍が期待される。

拜塔偈は左の如し。

創開六佰有余年
宗風爽爽一流禅
夢窓月影山野至
精進一步六月天

○同宗連絡会

六月三日大徳寺において、同和問題にとりくむ宗教教団連帯会議の第一連絡会が開催され矢野教育学部員が出席した。

○二十年度春期拝観報告

六月四日、春期拝観が終了した。今期も法堂、方丈、宣明(浴室)を公開した。インフルエンザの影響で団体客等のキャンセルがあり、昨年度を七千人程下回ったが約一万六千人の参拝があった。秋期拝観は九月十五日(火)～十二月八日(火)の予定である。

○臨黄移動理事會

六月十～十一日、鎌倉円覚寺で臨黄移動理事會が開催され、江上宗務総長、坂根庶務部長、澤財務部長が出席した。

○天童寺・阿育王寺訪問

六月十二日、中国浙江省寧波にある天一閣で七類堂天谿氏による画展開幕式が開催され、管長が日本側主賓として出席され、小出量堂桂徳院住職が同行した。七類堂氏は広島県尾道出身の日本

画家であり、絵画を通じて日中文化交流にも積極的に取り組んでいる。氏の天谿の号は管長より授けられたものである。一行は開幕式に先立ち、天童寺、阿育王寺を表敬訪問し、お互いの交流を深めた。尚、阿育王寺発行の本に明時代初期の同寺住職雪窗悟光禪師が、相国寺第二世春屋妙葩禪師に寄せた偈頌が掲載されているので、ここに紹介する。



28年ぶりの再会 天童寺廣修長老

妙葩首座號春屋頌

東風春暖榮草木 東風暖を布いて、草木栄ゆ
千葩萬卉争紅緑 千葩萬卉、紅緑を争う
等閑掃就青苔篇 等閑に掃就す青苔の篇

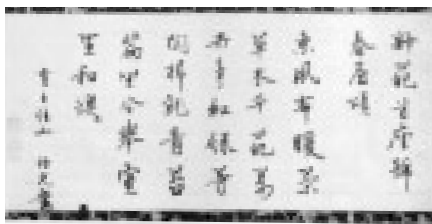
(*右頁下段写真参照)



天童寺誠信法師と、左は七類堂師



阿育王寺



*雪窗悟光禪師が春屋妙葩禪師に寄せた偈頌 (図録「阿育王寺」より)

坐令舉室生和燠 坐して室を舉げて和燠を生ぜしむ
育王住山 悟光書

千葩萬卉 千の花、万の草木
和燠 和やかで、あたたかな様

○観音懺法会

本山恒例の観音懺法会が六月十七日午前七時半より方丈において厳修された。参拝客も年々増えてきており、早朝から方丈はほぼ満員となった。

◆役配

導師 雅晶東堂 太鼓 長栄和尚
香華 林光和尚 大鈸 玄集東堂
自帰 光源大和尚 中鈸 弘祐塔主
磬 哲永東堂 小鈸 正道座元
維那 豊光和尚

○鹿苑寺齋会

六月二十日鹿苑寺(山木康稔執事長)において、村上慈海長老の二十五回忌法要が厳修され、管長を導師に、国泰寺派管長虚室老大師、頼光室老大

師をはじめ、江上宗務総長他、一山尊宿、縁故寺院、在家多数が参列した。法要後は齋席となり慈海長老を偲んだ。
管長香語は左の如し。
(関連写真5頁)

年光流尽去如汾 年光流尽して、去つて汾るが如し
井五沈淪似水雲 井五沈淪、水雲に似たり
無縫塔前誰共語 無縫塔前、誰か共に語る
報恩香馥一炉芳 報恩香馥、一炉芳し
頼底九拜
定中昭鑑

○前堂転位式

七月一日、開山堂に於いて三教区明覚寺(山崎義宣住職)徒弟山崎浩宣師の前堂転位式が挙行された。師は本派僧堂で故拈



華室老大師、頼光室老大師について修行された。明覚寺は北海道旭川市に位置し、東京以北では唯一の相国寺派寺院である。三年前には管長御親教が盛大に厳修された。山崎副住職の新たな宗風挙揚に期待が集まっている。
拜塔偈は左の如し。

夏木蒼々萬年辺
供水點燈祖塔前
酬恩一句如何舉
現象森羅物々真

○東京維摩会開催

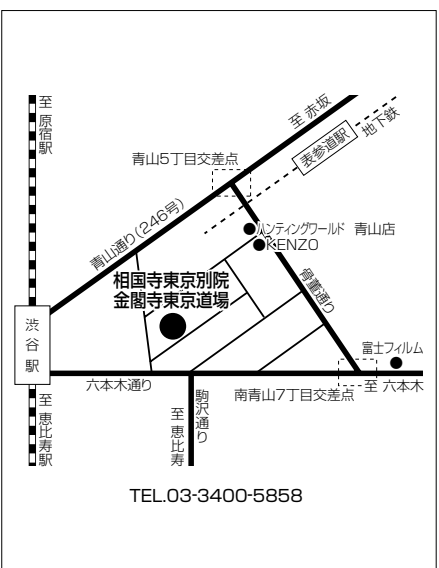
年内の開催日は次の如くである。

管長坐禅会

八月休会 九月十二日 十月十日
十一月七日 十二月十二日
十一月のみ第一土曜日、他は全て第二土曜日
時間…午前十時半より正午頃迄
内容…「無門関」提唱、坐禅、茶礼
威儀…坐禅の組みやすいゆったりとした服装が好ましい。

老師坐禅会

八月十五日 九月五日 十月二十四日
十一月二十一日 十二月十九日
九月が第一土曜日、十月が第四土曜日
あとは第三土曜日
※前号で案内しました九月十九日と十月十七日は変更になりました。
時間…午後一時より三時半迄
内容…「臨濟録」提唱、坐禅、参禅
威儀…袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、ゆつたりとした服装でお願いします。



教区だより

第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講石山寺参詣
毎年六月大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて光源院住職荒木元悦和尚は、住

職以来今年で四十二回目の入峰修行を無事終えられた。

六月十二日午前九時、光源院行者堂において前行、道中安全、家内安全の祈願を役員及び今回の院号授与者の他多数の参拝者で行い、翌日十三日

午前六時京都出発、貸切バス二台に八十名と共に新緑の大和道を洞川に向い、早めの昼食後直ちに入峰する。

本年は道中さわやかな天候にめぐまれ、今年の新客はわずか四人ではあったが西の視をはじめ各裏行場修行を全員無事行い、そろって本堂に向かい参詣し、勤行の後無事下山した。

西村清五郎旅館にて宿泊する。

十四日午前五時半、竜泉寺にて新客全員と共に般若心経をとえながら水行する。

おわって後朝食を取り洞川を出発、一路観音霊場第六番壺阪寺に向う。参詣後昼食、おわって近江へ向う。第十三番石山寺を参詣。記念写真の後雄琴「緑水亭」へ向い、午後五時より小宴を開く。

午後七時緑水亭を出発、午後八時半無事全員堀川今出川着。万歳三唱をして目出度く解散する。

第二教区

○教区総会

四月二十五日(土)午後三時より、教区総会が西京区嵐山の蔵泉寺で開催された。山崎の合戦で敗

れた明智光秀が隠れ住んでいた庵である。また、夢窓国師の腰掛石が残っているお寺でもある。第二教区十二名の住職のうち十一名が出席した。いつものように、諷経した後、総会に移る。大きな議題はなく、午後五時より場を替えて、嵐山まつ屋で懇親会となり、午後七時散会した。



蔵泉寺本堂にて

第三教区

○瑞林寺夢窓国師(毎歳忌)

四月十九日、瑞林寺(三重県津市片田井戸町長谷寺高山宗親住職兼務)では、大本山から佐分宗順教学部長、慈雲院住職草



場周啓師を拜請し、町民こぞって参列し開山毎歳忌を厳修した。

第四教区 (平成二十年十一月十五日～二十一年六月十五日)

※平成二十年

十一月十六日に真乗寺晋山式がありました。前号の円明に記事が掲載されていたので省略。

平成二十一年

一月九日 寺庭婦人会 新年例会(於・長

福寺)

新年度行事を協議。

若狭相国会役員会

少年研修会等について協議。

二月七日 宗務支所 新年会(於・小浜ホ

テルアーバンポート)

新年度行事、御親教について

協議後、懇親会。

二月十二日 若狭相国会少年研修会(於・本

山相国寺、鹿苑寺)

四月二日 児童四十三名、住職八名、相



国会役員七名、計五十八名参加。

本山にて研修、齋座を頂き、鹿苑(金閣)寺に参拝後、嵐山「時雨殿」にて研修。

当地では小学生の百人一首カルタ大会が毎年開催されている為、嵐山の「小倉百人一首の殿堂・時雨殿」は児童に大好評でした。

四月二十七日 宗務支所 支所会(於・善応寺)

本派定期宗議会報告、平成二十年度宗務支所会計決算。

及び本年度御親教について協議。

五月十二日 寺庭婦人会 研修旅行(京都市面にて)

五月二十日 若狭相国会総会

平成二十年度会計決算、役員改選等協議の後、西村恵信師(前花園大学学長)の講演を頂戴した。演題「いのちを見つ

めて生きる」

六月十一日 寺庭婦人会 春期例会(於・園松寺)

六月十三日 宗務支所 御親教説明会(於・真乗寺)

本年度開教寺院総代・役員への御親教の説明・協議。

六月十四日 若狭相国会 新旧役員引継ぎ会(於・善應寺)

第五教区

○相国会出雲支部総会

五月十八日、西光寺に於て平成二十一年度出雲相国会総会を開催、支部理事・代議員が出席。

平成二十年度事業報告・決算報告のあと、平成二十一年度事業計画・予算案を審議し承認した。

今年度の事業は、七月二十四日に夏休み親子坐禅会を開催、本山開山忌に団体参拝等である。

第六教区

○南洲寺齋会

二月二十四日、南洲寺(矢野焔恵住職)において、先住矢野完道和尚十七回忌法要が大光明寺住職矢野謙堂和尚導師の下、教区寺院、縁故寺院多数出頭され、親族、檀信徒見守る中、裏千家下野宗牟氏の供茶に引続き、楞嚴呪行導法要が営まれた。法要後は出齋となり、完道和尚の遺徳を偲んだ。

尚前日の二十三日夕刻の宿忌法要は縁故寺院の久留米市(福岡県)安国寺(南禅寺派)閑栖杉慈邦大和尚の導師の下厳修された。

○教区寺院住職会

五月二十六日夕刻五時より、霧島温泉キッスホテルに於て、住職会の後、郷土料理、生ビール、芋焼酎を酌み交わしながら一年ぶりの懇親会が長時間におよんだ。

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp



熊本、福岡、檀信徒参拝の旅

光明寺 真珠会 東 博子

秋晴れの平成二十年十一月十七日、十八日の二日間、光明寺婦人部真珠会の研修旅行で朝八時半出発。鹿児島から、加藤清正築城の熊本城へ、本丸御殿が復元再建され大広間や藩主居間の昭君の間の障壁画、天井画を拝観し城内をゆっくり散歩しながら、斎座の後は次なる目的地、筑前の小京都と呼ばれる秋月を目指します。

黒田藩ゆかりの黒門、瓦坂、長屋門等桜の馬場をめぐる。秋月家から米沢藩に養子となった上杉鷹山の治世を範とした中世秋月氏から近世黒田藩にどの様に時代は移ったのでしょうか、ゆっくりとした時間の流れの中をバスは原鶴温泉に向います。おもしろいお話が飛び出したりするホテルでの食事の後は、とろりとした源泉に浸りながら今日一日の心よい旅の疲れを癒します。

十八日朝食後、博多を目指して一時間、博

多三禅刹と呼ばれる聖一国師の勅賜承天禅寺の拝観、冷たく静かなたたずまいの山門をくぐると自然に身も心も引き締まります。仏殿、開山堂、方丈では老師様から、うどん、饅頭の日本粉食文化発祥地など貴重なお話も承り、博多山笠の原型と云われる施餓鬼欄や洗滌庭など全員洗心されて次の目的地、元岡観音堂に向います。本岳寺の毘盧遮那仏に手を合せ斎座の後は伊勢神宮勸請の二見ヶ浦と桜井大神宮を参拝、重要文化財の本殿、桜門、拝殿、石鳥居など、三鈷の松をお守りにそれぞれ戴いて帰途に着きます。

博多から鹿児島まで約四時間、笑ったり、まどろんだりしながら午後六時光明寺に帰着、門迎を受けて解散、紅葉も含めて見所の多い楽しい二日間でした。ありがとうございました。

合掌



● 編集後記 ●

昨年より、アメリカのサブプライムローンに端を発した経済破綻は、世界的な経済恐慌へと発展しつつあります。日本もその例外ではなく確実にその影響を受けています。今までアメリカ主導で世界の経済を動かしてきたグローバリゼーション、新自由主義などの経済理論はもはや信用されなくなってしまいました。かつてグローバリズムや新自由主義的な経済政策を推し進める理論的担い手であった有名な経済学者は、今までの自分の経済政策理論は間違っていたと自ら認め、反省の著作を著しています。今更何を主張しようというのでしょうか。何とも言いようがありません。

そんな中、以前からアマルティア・センをはじめ一部の経済学者はこれまでの経済学を批判的に見直し、仏教的な世界観に基づく、仏教経済倫理のようなものを中心に据えた、経済学の再構築を目指す動きも見えていました。今までのような経済構造は見直されなければならないのは現実的に疑いようがありませんが、果たして仏教思想による新しい経済的パラダイムの構築は可能でしょうか。行き詰まった現況の打開を仏教思想に求めたと言うことでしょうが、そうであるなら、我々僧侶もそのことについて研鑽する責務があると思います。

相国寺の研修会では昨年、橋本努氏の「経済倫理と現代イデオロギー」、今年は松岡正剛氏の「世界と日本の見方」と題する、現代社会と経済の問題を取りあげた研修会を行ってきました。僧侶の参加者が少ないのは残念なことです。より多くの僧侶がこの問題に真剣に取り組み、仏教の担い手として、これからの世界再構築のため、たとえ微力であっても貢献できる道を探ってきたいものです。

今年もお盆が近づいて参りました。我々にとっては忙しい時期にさしかかりますが、お体十分ご留意いただき、寺門興隆に努めていただきたいと思います。

(佐分 記)

平成21年8月1日

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.or.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.or.jp (教学部)



社寺庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話(075)872-0005 FAX(075)872-0004

印刷を極め、印刷を超える —

生産力と機動力、開発力と発想力をもって
「新しい社会に貢献する企業」を目指します。



情報セキュリティマネジメントシステム ISO27001:2005
品質マネジメントシステム ISO9001:2000
日本水なし印刷協会
認可工場(環境安全対策)

ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572-4 NOA高松殿ビル6階 TEL.075-252-5421
[本社]金沢 [支店・営業所・工場]東京・金沢・大阪・富山・福井・京都・静岡 URL <http://www.yoshida-p.jp/>

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達
香老舗 松榮堂

京都本社/京都市中京区烏丸通二条上ル東側 〒604-0857 TEL 075(212)5590
東京支店/東京都中央区日本橋人形町2-12-2 〒103-0013 TEL 03(3664)2307
札幌支店/札幌市中央区南8条西12丁目3-6 〒064-0808 TEL 011(561)2307

京都本店 産寧坂店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店

大本山相国寺御用達
御法衣・仏具
(株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル
電話(075)221-4587
FAX(075)223-0094
フリーダイヤル(0120)014587

臨濟宗御法衣調達
大本山相国寺御用達
湯浅法衣店

〒606-0905 京都市左京区松ヶ崎杉ヶ海道町5-24
電話(075)705-2772
FAX(075)705-2773

大本山相国寺御用達
庭園 設計・施工
樋口造園(株)

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル
電話(075)462-1385
FAX(075)464-6120


大本山相国寺御用達
精進料理
矢尾 治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358
電話(075)841-2144
FAX(075)841-2110
<http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp>

總本山御用達
簾安田念珠店

本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角
電話(075)221-3735(代表)
東京・札幌・福岡 各営業所

文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達
社寺建築 設計・施工
数寄屋建築



澤甚株式会社 澤野工務店

本社
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入
TEL(075)561-5394(代) FAX(075)533-3775
山科事務所・工房
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL(075)541-1257(F)

貴重な御法衣の御用は
大本山相国寺御用達
後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表)(075)462-3915番
ファクシミリ(075)462-3616番
URL <http://www.rinzai.jp>
E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

大本山相国寺御用達
社寺建築 **(株)北村誠工務店**

〒603-8225
京都市北区紫野南船岡東町45
電話京都(075)441-0563
FAX京都(075)441-0571

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**
<http://www.kyotobank.co.jp/>

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨跡・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手 発売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所
矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町318
TEL(075) 254-6021(代)・FAX(075) 254-6022

東京営業所 〒203-0014 東京都東久留米市東本町9-9 TEL・FAX(0424)72-6239

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

あなたの、豊かな 人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継



三菱UFJ信託銀行 京都支店

〒600-8006

京都市下京区四条通高倉

TEL.075-211-7161

届出第6号 (社)不動産協会会員 (社)不動産流通経営協会会員
(社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

Your Global Lifestyle Partner

～お客様の感動を創造します～

国内旅行

宇宙旅行

海外旅行

大会幹旋



JTB西日本団体旅行京都支店

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町470 京都フクトクビル5階

TEL:075(241)0139 FAX:075(255)6564

(営業時間 9:30～17:30/土・日・祝日休業)



二条城のほとりに

寛ぎがある

京都全日空ホテル

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前

ご予約、お問い合わせは (075) 231-1155

<http://www.ana-hkyoto.com>



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 www.dnp.co.jp/denshoubi/

DNP

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

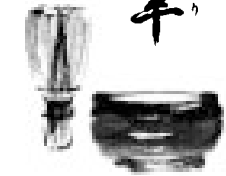
抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶農林水産大臣賞29回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃翠

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

〈宇治茶製造販売〉

本社 京都府宇治市小倉町寺内86

(0774)20・0909

伊勢丹店 シェイアル京都伊勢丹B1

西河院店 中京区西河院通御池下ル

茶房「元庵」も取り扱い
<http://www.marukyu-koyamaen.co.jp>

相国寺研究四「幕末動乱の京都と相国寺」

講師◎笹部昌利氏

今年度の相国寺研究は佛敎大学・京都産業大学非常勤講師 笹部昌利氏を講師に迎え以下の日程で研修会が予定されている。

日程

- 第十回(三十九回)平成二十一年十一月十一日(水) 「京からみた幕末の世」(仮)
- 第十一回(四十回)平成二十一年十一月十八日(水) 「薩摩藩島津家と相国寺―京の寺院と大名屋敷」(仮)
- 第十二回(四十一回)平成二十一年十二月二日(水) 「京の『志士』であるということ」(仮)

講座内容

幕末維新の日本は、激動の時代として、広く一般に

のみ動かされるとして説かれてきた幕末維新に対する考え方を変える重要な素材となりうるものである。同史料を活用しつつ、京の幕末維新史の再考察を試みたい。

一、京からみた幕末の世

嘉永六年、ペリーの来航によって幕開けした幕末激動の世を、京都や近郊の人びとはいかに体感していたのかについて考える。

二、薩摩藩島津家と相国寺

元治元年、相国寺門前に建てられた薩摩藩京屋敷の建設プロセスを追い、薩摩藩島津家の政治史に関する新視角を提示する。

三、京の「志士」であるということ

幕末動乱に関わる人間はすなわち「志士」とよばれ、その多くが京を訪れている。彼らは一体、何をしに京にやってきたのか。坂本龍馬らといった場所はどのような空間であったのか？ 志士の政治行動から京の幕末を問い直す。

いずれも、

時間 午後一時―二時三〇分

講義

いたるまで認識がなされている。このような認識は、戦後の明治維新という社会変革の理解をめぐって、闘いあわされてきた歴史学の成果や、司馬遼太郎に代表されるような「国民的」小説家によって描かれた物語によって形成されたものであるといえる。平成二十二年一月より放映されるNHK大河ドラマ『龍馬伝』についてもおおよそ、激動の時代を勧善懲悪的な枠組みで理解し、快活な「ものがたり」として我々に提供されることであろう。

ただ、実際の「幕末」という時代は、活劇のみで描けるものではない。動乱の政治には、彼らが属する組織(大名家、幕府、朝廷)や制度が多分に影響し、所在する場所によっても大きく異なる。幕末の世の中は、その背景にある制度的な側面をクリアにしないと理解しえないのである。幕末の歴史は、これを理解することなく、提供されつづけているといつて過言ではない。そのような点からいえば、「相国寺文書」に存在する「薩摩藩屋敷関係資料」(仮)は、傑出した人才によって

午後二時四〇分―三時一〇分 質疑

場所 相国寺二階会議室 または承天閣二階講堂

尚、都合によりやむを得ず日程を変更することもありますのでご了承ください。

◆二〇〇九年度前期研修会

二〇〇九年度前期の研修会は三月から七月にかけて三回にわたり、松岡正剛氏を講師に迎え、「世界と日本の見方」と題して以下の日程で開催された。第一回三月十日「グローバルリズムと日本」、第二回五月十四日「一神教と多神多仏」、第三回七月十六日「編集的世界観」。





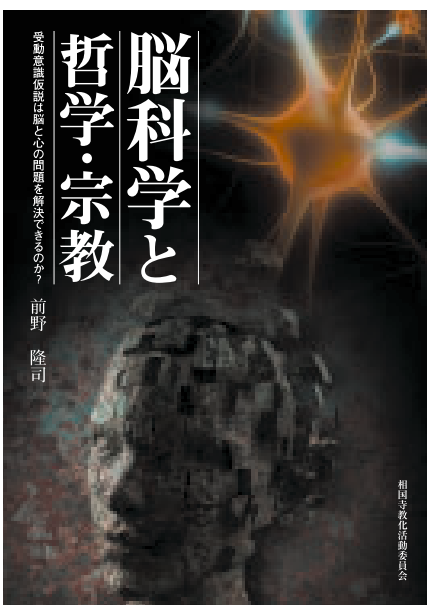
いずれも午後一時三十分から三時三十分頃まで二時間を超える講義で、質疑応答の時間は割愛した。毎回八十人を超える受講者があった。
 今回の研修会の講師および日程は未定である。

◆講義録発刊

『脳科学と哲学・宗教

―受動意識仮説は脳と心の問題を解決できるのか―

慶應義塾大学教授 前野隆司著

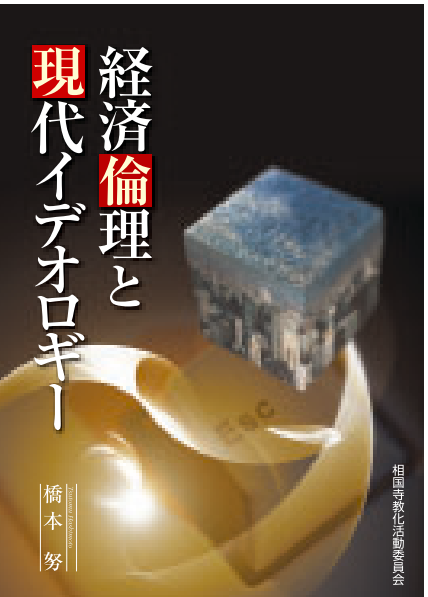


本書の内容

- 第一講 心のクオリアの謎を解く受動意識仮説
- 第二講 感覚も自己意識も脳のニューラルネットワークが作った幻想なのか？
- 第三講 悟りの境地は脳科学で説明できるのか？
- 第四講 受動意識と宗教・哲学・科学の歴史 ロボットの身体と心

『経済倫理と現代イデオロギー』

北海道大学大学院経済学研究科准教授 橋本 努著



本書の内容

- 第一講 経済倫理―あなたは、なに主義
- 第二講 グローバルな正義
- 第三講 近代化と宗教―ウエーバー中間考察の刷新
- 第四講 潜在能力イデオロギー

研修会受講ご希望の方は、希望講座名、氏名、年齢、住所、寺院名、電話番号、FAX、Eメールを明記の上、左記までお申し込みください。尚相国寺のホームページからも申し込みが出来ます。ご利用ください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話 〇七五―二三二―〇三〇一

FAX 〇七五―二二二―三三九九

ホームページ (<http://www.shokokuji.or.jp>)

研修会講義録ご希望の方は上記宛先までお申し込みください。



門川京都市長(左から2人目)を迎えて行われたパリ帰国展のオープニング

「相国寺 金閣 銀閣名宝展

「パリからの帰国」開催中

(平成二十一年四月十一日～九月六日)

昨年十月十六日から十二月十四日までフランスのパリ市立プチパレ美術館で、日仏交流百五十周年と京都市・パリの友情盟約締結五十周年を記念し、「相国寺 金閣 銀閣名宝展」京都に於ける禅と美術」が開催されました。禅文化の真髄をパリの市民に紹介するべく企画されたもので、中・近世の墨蹟・絵画・茶道具など、五山文化の精粹を一堂に展観。期間中、禅に魅了された五万人を超えるパリの人々に御観覧いただきました。

此の度、この意義ある展観を、ここ承天閣美術館で帰国展として行うこととなりました。プチパレ美術館へ出展した百点の美術品を全て承天閣で展示しております。

これに先立ち四月十日承天閣に於いて開会式・テープカットと内覧会が執り行なわれました。門川大作京都市長、可児達志京都国際文化交流財団理事長、杉田亮毅日本経済新聞社会長、河内一友毎日放送社長と有馬頼底相国寺派管長らによりハサミが入れられました。引続き百名の招待客の内覧会となり、禅・茶道文化の展観を満喫されました。その後京都国際ホテルへ移り祝宴が催されました。

真台子飾

(平成二十年秋パリ・プチパレ美術館出展・現在承天閣で展示中)

台子は元来中国禅院で使用されていたもので、大応国師(南浦紹明)が、文永四年(二二六七)虚堂智愚の法を嗣ぎ宋から帰朝のおり、台子と皆具一式を、博多崇福寺に請来したという。その後大徳寺に伝わり、さらに当山開山夢窓疎石から、室町幕府將軍家の書院茶の「台子飾」として用いられた。そして東山時代に、八代將軍足利義政と能阿弥・芸阿弥により法式が定められ、村田珠光、武野紹鷗、千利休を経て今日まで伝えられている。

皆具とは風炉釜、水指、杓立、建水、蓋置を一式としたもので、このように黒塗台子に唐銅で揃えたものを真とする。元相国寺塔頭鹿苑院の所蔵で、明治に院が廃絶したのち同塔頭大光明寺に伝来した。



真台子 江戸・大光明寺蔵

皆具一式 室町・大光明寺蔵

東山御物

唐物小丸壺茶入 宋・慈照寺蔵

足利義政所持 添唐物言貝盆

真形杓 羽淵宗印作 室町・慈照寺蔵

黒天目茶碗 添唐物堆朱俱利天目台

宋・大光明寺蔵

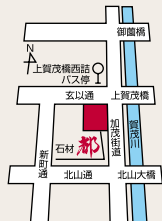
(宝物解説 承天閣美術館事務局長 鈴木景雲)

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男



年中無休 営業時間 / AM 8:30 ~ PM 6:00 (日曜日 PM 5:00 まで)

本 社 : 〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ 電話 (075) 491-4114 (代)
(上賀茂橋西詰バス停前)
工 場 : 京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話 (075) 702-2440
(洛北病院バス停前)
夜 間 : 京都市左京区岩倉南池田町 117 電話 (075) 702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

處和 和に處す

心身を平和の地におくこと

莊子

撮影◎豊光寺住職 佐分宗順
(場所/長野・善光寺)